

IPテレフォニーシステム / Zultys MXシリーズ

VoIPからアプリケーション連携まで
“オールインワン”に磨きかける「Zultys」

米国Zultys Technologies(ザルティス・テクノロジーズ)社の日本総代理店を務める日商エレクトロニクスが、IPテレフォニーシステム「MXシリーズ」の販売に力を込める。機能強化された新バージョンの投入を受けて、“より深く・より広い”提案活動に乗り出した。

「Zultys MXシリーズ」のコンセプトは“オールインワン”。SIPベースのサーバー装置「MX250」は、IP-PBX、メディアゲートウェイ、アプリケーションサーバーの各機能を1台に集約。単一のオフィス内はもとより、複数拠点を結んだネットワーク環境でも、フルIPのコミュニケーションを一元管理する。これにより、低コストで容易なシステム構築・運用が実現されるという。

IP電話端末は、多機能電話機タイプの「ZIP4×4」、ルーター機能内蔵の「ZIP4×5」、標準電話機型の廉価版「ZIP2」をラインナップ。加えて、ボイスメールや電話帳、プレゼンス表示、インスタントメッセージなどの機能を盛り込んだクライアントPC用ソフトフォン「MXIE(ミクシー)」も標準で提供する。

この11月には、「MX250」の新バージョン(Ver.2.2)をリリースし、大きく4つの機能を追加している。

まず、MXIEの付加機能となる、

PC上でボイスメールやFAX(TIFFファイルに変換)を一元管理する「ユニファイドメッセージ機能」、通話中の内容をリアルタイムに録音・保存する「通話録音機能」。また、システム拡張および障害対応として、250端末まで制御可能な「MX250」を4台接続して最大1000端末のシステムを構築できる「クラスタリング機能」、バックアップ用のMX250と局線切り換え装置「XRS12」による「冗長化機能」を搭載した。

さらに日商エレクトロニクスでは、国内向けの特徴として、「キャリアのIP電話サービス対応」も、オールインワン機能の1つに加えていく計画だ。

コールセンターにも積極提案

「MXシリーズの販売においても、今回のバージョンアップは大きなインパクトをもたらすもの。コストパフォーマンスの訴求力がさらに高まるとともに、提案対象も広がった」。日商エレクトロニク



SIPベースのオールインワンサーバー「MX250」(左)とIP多機能電話機「ZIP4×4」(右)

スIPテレフォニー事業推進部の株野雄一マネージャーはこう話し、積極的な拡販策を打っていく考え。

従来からの一般オフィス向けでは、電話インフラのIP化によるコスト削減提案から、ユニファイドメッセージを切り口に「ワークフローの改善提案」へと踏み込んでいく。

一方、ACD機能と通話録音機能を生かし、コールセンター市場へのアプローチも強化する。特に、同社が得意とする金融・信販業界では、「各支店レベルで、数席規模の電話相談窓口を設ける動きが活発化している。低コストで導入できるMXシリーズは、こうした利用シーンに最適」と見ている。そこで、自社開発の債権督促システム「ACC2000」や、外部ベンダーのCRM/CTIパッケージなどと組み合わせせたソリューション提案にも力を入れていく。

株野マネージャーはまた、代理店網の拡充も重要なポイントに掲げている。「これまでに他社のVoIP製品を扱っていたネットワークインテグレーターなど数社とパートナー契約を結んでいる。今後20～30社程度まで増やしたい」という。併せて、提案時やシステム構築のサポート体制も強化し、導入実績を大きく伸ばしていく構えだ。

お問い合わせ先

日商エレクトロニクス株式会社

IPテレフォニー事業推進部

東京都中央区築地7-3-1

TEL : 03-3544-8278

FAX : 03-3544-7642

E-mail : zultys@nissho-ele.co.jp

URL : http://www.nissho-ele.co.jp

図 Zultys MXシリーズの導入例

